貿易摩擦に対する 日米経済協議会の取り組み



ひら の のぶゆき 日米経済協議会 会長 **平野 信行**

2018年3月以降、米国トランプ政権は、 通商拡大法232条に基づく鉄鋼・アルミニ ウムの輸入関税措置の発動や中国の知的財産 侵害に対する通商法301条の準備発案に続 けて、5月には自動車・部品等に対する輸入 関税適用の検討を発表しました。こうした米 国の措置に対し、6月にはEU、7月には中 国やカナダが報復関税措置を発動しました が、それを受けて米国が中国に対してさらに 22 兆円相当もの巨額の報復関税を実行に移 す旨を正式表明するなど、報復措置の応酬が 現実のものとなっております。保護主義や内 向き志向の強まりは、わが国および世界経済 にも多大な影響を及ぼす上に、報復合戦の結 果、米国の強硬措置がWTOの多角的シス テムを崩壊させてしまう恐れもあり、今後の 成り行きが強く懸念されます。

このように、これまで世界貿易・通商の 安定的な発展を支えてきた秩序が大きく 揺さぶられる中で、日米経済協議会も、年 1回の日米財界人会議に向けた諸準備に加 え、さまざまな活動を展開しております。 2018年5月11日には、米国のカウンター パートである米日経済協議会とで共同提言 書「Maintaining Momentum in the U.S.-Japan Economic Relationship(日米両国 の経済関係の持続的な発展に向けて)」をと りまとめ、通商拡大法232条鉄鋼・アルミ コウムや通商法301条の一方的な関税措置 に対する懸念や、ルールに基づく自由で開か れた国際経済秩序の重要性を表明するなど し、その後、日米政府関係者との意見交換 を続けてまいりました。また6月29日には、 米国の自動車等の輸入関税適用検討に関して、米国商務省宛てにパブリックコメントを 提出し、今回の措置が米国自身にも深刻な経 済的影響を与える懸念と、関税措置の根拠に 国家安全保障を掲げていることへの疑問、世 界的な報復措置の応酬が世界の貿易システム に多大な影響を及ぼしかねないことへの憂慮 を表明しております。

また、当協議会は、日米両国間の貿易・投 資拡大、日米財界の協力案件の活性化という 観点にも積極的に取り組んでおります。日 米両国は、インド太平洋地域における質の 高いインフラ構築を推進している他、2017 年11月のトランプ大統領の訪日時に、エネ ルギー分野の日米協力に関わる覚書を締結し ており、インフラ、エネルギー分野は日米双 方がWin-Winの協力関係を築くことができ る有望分野と思われます。この点、当協議会 は、同分野における日米協力の深化に向けて、 2018年3月28日に東京で開催された「エネ ルギー協力官民セッション」や、4月23日 にワシントンD.C.で開催された「日米第三 国インフラ協力官民ラウンドテーブル」にお いて、日本側の財界窓口機能を務め、多数の 主要企業にご参加いただきました。会議当日 は、日米民間の協力案件の創出に向けた活発 な議論が展開され、日米両国による協力案件 の創出と推進に向けて、官民一体で取り組ん でいく機運が醸成されております。

最後に、日米経済協議会は、米日経済協議 会と連携して、日米両産業界の人的つながり

を深めることにも尽力しております。日米が 貿易摩擦問題を抱えていた1980-90年代、 日米両国政府間で厳しい交渉が行われていた 最中に、日米両産業界の有力企業のトップ同 士が対話チャンネルを確保し、ヒトのつなが りをてこに信頼関係を築き、日米両産業界の 意見を共同で日米両国政府に提言していたこ とを踏まえますと、通商問題が世界的な問題 に発展し、日米経済関係の先行き不透明感が 強まりつつある現在においても、日米産業界 が率直な意見交換を通じてお互いの絆を強化 することの意義は深く、非常に重要と思われ ます。55回目となる2018年の日米財界人会 議は、10月31日(水)、11月1日(木)に 東京・帝国ホテルで開催される予定となって おりますが、日米両国の民間企業が建設的な 議論を通じて共同で政策提言をまとめること は、人的なつながりを深める上でも貴重な機

会になるのではないかと思われます。

また、皆さまのご理解の通り、米国政府に 対して日本からの声を適切に届けるには、ワ シントンD.C.での活動だけでなく、各州・ 地方における草の根レベルでの企業活動、社 会貢献が重要です。2018年度は、当協議会 の関連組織である日本・米国中西部会の第 50回日米合同会議を9月9日(日)-11日 (火) に米国ネブラスカ州・オマハにて、同 じく日本・米国南東部会の第41 同日米合同 会議を10月18日(木)-20日(土)に東 京にて開催の予定です。日本貿易会会員の皆 さまにおかれましても、当協議会の活動に幅 広くご参画いただいておりますが、2018年 も日米双方にとって有意義な会議となります よう、積極的なご参画とご支援・ご協力を賜 りたく、お願い申し上げます。 非

(本稿は2018年8月1日に入稿いただいたものです)



新旧会長および副会長による安倍総理への 第54回日米財界人会議の概要報告



第54回日米財界人会議



石原前会長(中央)および平野新会長(右)

Joint Statement Maintaining Momentum in the U.S.-Japan Economic Relationship

U.S.-Japan Business Council/Japan-U.S. Business Council May 11, 2018

Following the summit meeting between President Trump and Prime Minister Abe on April 17 and 18, the U.S.-Japan Business Council and Japan-U.S. Business Council (the "Councils") take this opportunity to highlight the importance of the economic partnership and good relations between the United States and Japan.

The U.S.-Japan economic relationship is mutually beneficial. Japan is a critical market for U.S. exports of goods and services across a range of industries, with total exports measuring almost \$115 billion in 2017, making Japan the fifth largest market for U.S. exports. The United States remains the second largest market for Japanese exports.

Investment flows also strengthen the bonds between our countries. Japanese companies invest more in the United States than those from any other country except the United Kingdom. As of 2017, Japanese companies cumulatively have invested over \$410 billion in the United States, providing over 800,000 well-paying jobs to American workers. Japanese investment in the United States has increased significantly over the past four years, and has created thousands of new jobs in manufacturing and other sectors, thus helping lower the U.S. unemployment rate. Japanese companies operating in the United States also pay billions in taxes and wages, contribute significantly to U.S. exports, and play important roles in the communities in which they operate.

It is against this backdrop that the Councils urge both governments to find a positive and constructive path forward in the economic relationship that can expand our trade and investment ties even further to support jobs and economic growth in both countries, and provide collaborative leadership to establish a free and open global trading system that will also benefit both countries and the global economy

The Councils recognize that unilateral measures will not lead to a resolution of the global overcapacity of steel and aluminum production caused by market distorting measures. The Councils urge both governments to accelerate the work on global overcapacity in steel along with other nations under the framework of the G20 and the OECD, rather than resort to tariffs, which is already leading to sharply higher prices for manufacturers and other steel users in the United States.

The Councils also urge both governments to lead efforts with other allies to promote free and fair trade by establishing high standards and strong rules for trade and investment, including enhanced intellectual property protection and clear rules that enable digital trade. The rules-based trading system is the basis of our mutually beneficial relationship. and is essential for economic growth both in Japan and the U.S., as well as the rest of the

日米両国の経済関係の持続的な発展に向けた共同提言